

2019年度 「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	水俣病事件資料集続刊の刊行に向けた編纂
取り組み実施期間または日時	2019年10月～2020年10月（継続中）

【取り組み目的】 水俣病事件は、その規模の大きさと被害の深刻さにおいて日本を代表する公害事件である。医学的側面からもまた未解明な部分を多数残しており、社会的・政治的事件としての水俣病は、詳細な研究はこれからと言わざるをえない。水俣病研究会編『水俣病事件資料集 1926-1968』葦書房が刊行されたのは1996年であった。この資料集によって水俣病事件史研究に貴重な資料が提供された。ただし、1968（昭和43）年で終わっており、水俣病研究会においても続巻編集の努力が続けられてきた。水俣病事件史の全体像を明らかにし、後世に伝えていくために続刊の刊行が待たれている。水俣病事件を初期から経験している方々が少なくなりつつある現在、喫緊の課題として資料集の編纂を企画した。

現在、水俣病研究会が収集した資料はもとより、熊本学園大学水俣学研究センター、相思社さらには各地の大学図書館や資料館に資料が収蔵されていることをふまえて、資料集の編纂を進めていきたい。

そこで、あらたに広く各界の参加と協力に基づいて、2016年に水俣病事件資料集編纂委員会を立ちあげ、一次資料の蒐集をしてきた。『水俣病事件資料集1926-1968』同様の考えに立ち、1969年以降の一次資料の蒐集と収録を行い、2022年に1巻目の刊行開始を目指して、編集作業を進める。このことが水俣病事件研究を後世につなぐ取り組みになるといえる。

【取り組み内容と成果】

続編として刊行する『水俣病事件資料集』は、A5版、700頁、全6巻、本文9P、出版社：弦書房、発行年：2022年3月～2027年3月（1年に1巻ずつ刊行し、最終年度に年表の補冊を加えた2巻を刊行）という内容で、研究計画にそって取り組み、次の成果を得た。

- 1) 時代区分の各担当者：【1969年9月27日～1973年7月】高峰、【73年8月～80年12月】花田、【81年1月～95年12月】井上、【96年1月～09年7月】東島、【2009年8月～2018年】石貫・隅川 が資料収集する段階で見取図を作成し、その後、資料カードを作成した。
- 2) 資料収集と見取図・資料カード作成：2019年10月～2021年12月（継続中）
 - ①主な資料は「水俣病研究会蒐集資料」を基礎とし、各担当者で必要時資料を収集（2016年から実施）
 - ②個人で所有する資料は、複写を熊本学園大学水俣学センターで所蔵し、「高峰武旧蔵資料」など個人資料名をつけ④の作業を行っている。
 - ③新聞記事資料は、熊本日日新聞社を基礎とし、コピーしたうえで目録化した。
 - ④収集した資料は、コピーして資料NOをつけ、近代資料目録作成基準に則り目録を作

成した。複写した資料は、文書箱に保存し、熊本学園大学水俣学研究センター資料室に配架することで、続刊刊行後に資料閲覧したい場合には誰もが閲覧できる環境を整えた。この複写・整理・目録化の作業にアルバイトを雇用した（資料1-1.1-2）。

- ⑤各担当者は、不足分の資料を見取図で確認し、進捗状況を報告し意見を反映したうえで再度収集に努めることで偏りのない資料収集につとめた。
- ⑥県議会議事録は、ネットで閲覧可能であり、収集したが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、原本にあたる作業ができていない。
- ⑦年代不明のビラは、各担当者が「推定年・根拠」をA4用紙に鉛筆書きし資料と一緒に保管し、進捗状況報告時にどのように整理し目録化するか検討した。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、主要な編纂委員のみが対面で進捗状況を報告、他の担当者とは必要に応じて ZOOM など活用し、担当年の不足している資料の収集にあたっている。しかし、資料収集において、資料館など一部閉館となっており、収集そのものが困難であるため、継続した資料収集が必要となっている。それに伴い、上記④の作業も継続し必要となっている。

アルバイトのデータ入力作業環境は、厚生労働省が提示した「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」を満たしており、日々体調管理などの確認に努めた。自己資金は、担当者の資料蒐集のための旅費および複写費に充てた。

【備考欄】 今後の研究計画については次の通りである。

2019年度	各担当者による一次資料蒐集と見取図・資料カード作成し、月1回研究会で進捗状況の報告。個人の資料・新聞記事を複写し目録化。不足資料を見取図で確認し、再度資料蒐集にあたる。
2020年度	各担当者による担当年の原稿執筆、月1回研究会で進捗状況の報告。不足資料を研究会で確認し、再度資料蒐集にあたる。蒐集した資料は複写し目録化。
2021年度	索引、年表作成、原稿のとりまとめ、出版社に入稿
2022年度	3月から年1巻刊行（全6巻）、2027年に年表を補冊として2巻刊行